

5年 わたしの地図活用

わたしたちの生活と工業

資源・エネルギーの学習での地図帳の活用

千葉県袖ケ浦市立長浦小学校 前沢幸雄

1 はじめに

地図帳には地形的な情報だけでなく、統計資料もたくさん掲載されている。地図帳にある統計資料の活用は、資料活用の技能にとどまらず、社会的な意味を考える『思考・判断・表現』の力をつけていくことになると考えている。本稿では、身近にある素材を取り上げ、疑問を地図帳を使って解決していく授業を第5学年の「わたしたちの生活と工業」の実践から紹介する。

2 シーバースってなんだろう？

千葉県袖ケ浦市の東京湾沖約8kmの位置にシーバース（京葉シーバース）がある。シーバースとは、原油やLNG等をタンカーが直接接岸することなく、海上につくられた栈橋に停泊し、陸上とつながったパイプラインを通して直接工場やタンクに送る施設である。児童は自分たちの住んでいる地域の施設であるが、存在を知らない。



(写真2)

(写真1)



- ①写真からシーバースの役割を予想する。
- ・何かの工場 ・石油に関係ある
 - ・海の底を掘る ・船が着く ・港
- などさまざまな予想をノートに書きだす。

- ②再度写真を確認する。

写真をよく見ると「〇〇ライン」という文字が書いてあるパイプがある。ここには子どもたちも知っている石油関連の会社名が入っていることから、石油に関連した施設であることが確認できる（写真2）。

- ③疑問が生まれ、学習問題になる。

- ・なぜ、袖ケ浦市にこの施設があるのか。
- ・シーバースは何をしている会社なのか。
- ・石油を何に使っているのか。
- ・どうやって石油を手に入れているのか。

- ④地図帳より問題解決の糸口を見つける。

『楽しく学ぶ小学生の地図帳初訂版』（以下、地図帳）を見て、袖ケ浦市の近くに「製油」「火力発電」「化学製品」の工場が非常に多いことに気づかせる。



図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳初訂版』 p.38

- ⑤原油の使い方を話し合う。

- ・ガソリン ・燃やす ・プラスチック 等
- 大きくは3種類にまとめられる。

熱を生み出す燃料	工業製品の原料
物を動かす燃料	

- ⑥千葉県の東京湾沿いに石油関連工場が多いことを確認する。

- ・白地図上に石油関連工場を書きこませる。

・石油関連の工場を書きこませ、原油が燃料や原料として使われていることも理解させる。

児童は自分たちの住む袖ヶ浦市周辺と千葉県東部の東京湾沿いに石油関連工場が非常に多いことに驚いていた。

京葉工業地域は、他の工業地帯や工業地域と比べると化学工業の占める割合が多い。以前に学習した内容をふりかえり、結びつけることもできる。

⑦原油はどこから来るのか予想し話し合う。

シーバースの海底から原油を掘っていると考える児童もこの段階で数名いた。掘った原油をくみ上げて、陸上の工場へ送っていると考えているのである。しかし、日本の貿易の特徴が「加工貿易」ということから、原油は輸入品であると考える児童も多くいた。

⑧原油の入手先を確かめる。

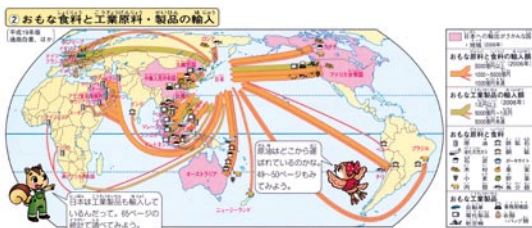


図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.61

原油は、サウジアラビア、クウェート、アラブ首長国連邦、イラン等の中東の国々から多く輸入していることを確かめさせる。原油をはじめとする燃料や原料のほとんどを輸入しているという日本の工業の特徴を抽象化することができる。

⑨学習のまとめをする。

それぞれが持った課題について自分の言葉として学習をまとめさせる（図3）。

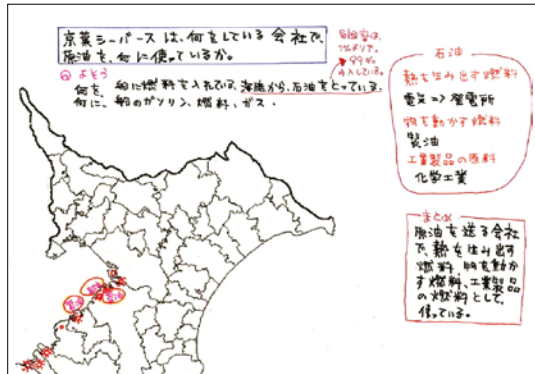


図3 児童が白地図に書きこんだ例

3 おわりに

今回の授業では、用意した資料は、導入で使ったシーバースの写真だけである。日常の授業で、多くの資料を用意して展開するには限界がある。しかしながら、社会科では「資料」が大きな役割を果たしていることは言うまでもない。わたしたちが普段使っている地図帳の中身を十分に理解することで、「話し合い」「書いて整理する」「書いてまとめる」等から、『思考・判断・表現』を鍛える授業が可能になると考える。